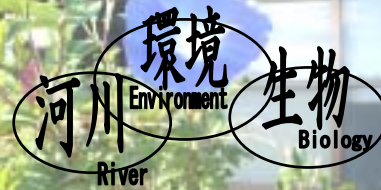


身近な自然の情報紙

かんきょう便り Vol.3

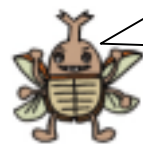


最近の環境課：本格的な夏を間近にひかえ、山や川をはじめ、あらゆる自然に出没中・・・。

Summer 2002

雑木林の昆虫と遊ぶ

～暑い日々もなんのその、虫達は元気一杯！ちょっとずいずいしい雑木林での虫とりを紹介します～



スズメバチだ！
近づかないように
しよう！

オオスズメバチ



ノコギリクワガタ



クヌギ林 (川内市にて撮影)

クワガタ君やゾウムシ君はボクと同じ「甲虫」なんだ



こんなところも探してみよう



枯れ枝(木)の下



木の根元



大人の方が一緒だと安全だし、高い所にいる虫も取れるからオススメ。あと暑いけど、薄手の長そでシャツ・ズボン・運動靴がベスト！飼う時は種類につき一匹ずつにして、残りは逃がしてあげよう。

執筆 宅間 友則

清流の生き物たち

～川内川上流 クルソン峡にて～



ミヤマトボ 左上:幼虫(ヤゴ)
日本産カワトンボの中では最大級。山間の溪流に多いので「深山(ミヤマ)」と呼ばれる。



トビケラ
成虫の羽が紫色であるところからつけられた。トビケラの中では最大で、全長40mmにもなる。



オヤマカゲラ
肉食性で体長30mm前後の大型のカワゲラ。上流域の流れがやや速い所に多い。



ヘトボ
比較的にきれいな川の石の下にすむ。「孫太郎虫」と呼ばれ、^{かん}猪の虫や^{きょうせい}強精の薬とされている。



カジカガエル

水のきれいな川の上流域に生息する。フィーフィフィと笛の音のような声で鳴く。鹿の鳴き声に似るという意味で、「^{かじか}河鹿ガエル」と呼ばれる。

写真右上は幼生(オタマジャクシ)

宮崎県えびの市クルソン峡にて撮影 執筆:徳永 修治



希少野生生物語り③

アリアケギバチ(ギギ科)

Pseudobagrus aurantiacus

この模様とヒゲ、立派だろ?昔から釣り人にはちょっと有名なんだぜ。最近じゃすっかり仲間も減っちゃったが、噂では、俺らの好きな石積みや、川底に石がゴロゴロしている川があちこちに出来てきているらしい。また仲間を増やして、人間達の前に参上するつもりだ。...ああそれから、俺を捕まえようなんて考えてる奴、やめといた方がいいぞ - 背中と胸の針でひどい目にあうからな!

(写真は幼魚)

九州西部と大淀川水系に分布。背鰭と胸鰭に針を持ち、胸鰭でギョギョと音を出す。環境省にて準絶滅危惧種に指定。夜行性。

川内市にて撮影 執筆:宅間 友則

気ままに川内川 ～3～

これらの写真は、始良郡吉松町と栗野町の町境付近、旧 268 号線沿いの川内川です。

現在は川添トンネルが開通したことから、旧道を通行される方は少ないと思いますが、ここには自然のままの川内川が、そして素晴らしい景観が残されています。



この付近の川内川は、兩岸を吉松町と栗野町のそれぞれの山々に挟まれ、険しいV字谷を形成しています。2～3mの巨岩もめずらしくありません。その昔、山や谷を削り川内川が生き続けてきた証を見ることができます。

この証を、そして川内川の鼓動が見たい、聞きたい方は、是非御覧あれ。

執筆 橋口 政信

集中豪雨

一年で最も雨の多い梅雨、中でもここ数年、集中豪雨による大きな被害がニュースを騒がせています。

集中豪雨にはいくつかの典型的なパターンがあるようです。



・梅雨前線上の低気圧の発達によるもの

梅雨前線上に新しい低気圧が発生すると長期間雨が降り続く場合がある。

・台風によるもの

台風が湿った暖かい空気を持ってくるため大雨になりやすい。

台風の中心の東側は雲が発達しやすく風も強いので被害が大きい。

・湿舌(しつぜつ)によるもの

南から長く伸びた舌の様な形で、湿った暖かい空気が日本に流れ込みます。この湿舌の先では大気が不安定になりやすく、激しい雨になりやすい。



気象情報はしっかりチェックして万全の対策をとりたいものです。

執筆 今吉 努

夜空の川下り

たまには川内川の中から川の状況や川岸の風景を見ようと思い、ボートで出かけてみました。

いやはや、早瀬を通るときは絶叫しながら、淵を通るときは心和やかになり思わず自分が無邪気な笑顔をしてるなと照れてしまいます。やっぱり自然に接していると元気が出ますね。みなさんも軽～く足をのばしてはいかがですか。

話は変わりますが、七夕の季節ですね。『おりひめ』と『ひこぼし』が川の上でデートをする日です。私達も川でひそかにデートをしておりました。冗談はさておき、未来の『おりひめ』と『ひこぼし』のためにもこのような自然は守っていききたいですね。七夕にはみんなで願い事を書いた短冊を笹の葉につるし、おりひめ星を見上げよう。私も皆さんも願いがかなうといいですね。



執筆 中村 尚



おに せき — 鬼ヶ堰 —



川内川中流の宮之城町時吉から湯田に行く途中の川内川畔に「ヒグイ坂」と呼ばれる所があります。昔は道幅も狭く杉などの樹木が生い茂り、昼間でも日暮れ時のように薄暗く淋しい所であったので「日暮坂」と呼ばれていたそうです。

ある時からこの付近に大勢の鬼達が住みつくようになりまして。いたずら好きの鬼達は、何とかして人間どもを“あつ”と言わせてみたいと考え、川内川を一夜のうちにせき止めて、川下の方へは一滴の水も流さないようにしようと思いつきました。

鬼達は日が暮れるのを待って、大きな岩や石を川に投げ込み、土を運んで堰を作り始めました。川を3分の2ぐらいまでせき止めましたが、水の勢いが次第に強くなり、せっかく運んだ岩や石は押し流されて、いっこうにふさがりません。体がくたくたになり困り果てていたところ、遠くの人家から「コッケッココー」と夜明けを告げる鶏の鳴き声が聞こえ始めました。これを聞いた鬼達は、力を失っていつの間にか姿を消してしまいました。



この辺りは、左岸側より川の3分の2位まで岩が突き出て、川内川をせき止めたようになっており今でも地元の人の間では“鬼ヶ堰”と呼ばれています。

(宮之城町郷土誌より引用)

川内川の鶴田町神子から宮之城町轟の瀬付近では、川底が岩に覆われている場所が多く見られます。これらは、殆ど過去の火山活動による火砕流堆積物により形成された溶結凝灰岩であると言われています。

執筆 角 成生



手長蝦の唐揚げ

川魚食のすすめ 身近な川魚のおいしい話③

海エビよりも、いささか地味で小さいけれど

長いハサミは自慢の一品

暑い日々の川遊び、一石二鳥の食材探し

衣もいらず、素揚げに塩で十分うまい川の幸、テナガエビ

是非一度賞味されたい

手長蝦 てながえび (テナガエビ科)

北海道と琉球列島を除く日本全域の河川に生息。雑食性。他にミナミテナガエビやヒラテナガエビ(中流域の瀬に多い)等がいる。河口や汽水域に生息するものは、一旦海で生活した後、川を遡上(そじょう)するものが多い。

執筆 宅間 友則



今年のホタル情報

種名: ゲンジボタル

時期・数: 5/5~5/25頃。昨年より1週間ほど早く、やや少なめ。

多かった場所(川内川)

・鶴田第二ダム下流から神子橋

・宮之城町山崎大橋上流

夜間撮影状況(宮之城町にて)

(ISO1600, F2.8, 50mm, 絞り:開放, 90秒)



夏の季節「二十四節気」

りつ	か	5/6頃	新緑が目立ち始める。夏の気配。
立	夏		
しょう	満	5/21頃	草木などが生長して生い茂る。
小	種	6/6頃	稲等穀物の種まきをする頃。
芒	芒		
げ	至	6/21頃	一年中で一番昼が長い。
夏	小	7/7頃	本格的な暑さが始まる頃。
し	小		
しょう	暑	7/7頃	
たい	大	7/23頃	最も暑い頃。
大	暑		

身近な河川・環境・生物などについて年4回、季刊として発行していきたいと考えております。ご意見、ご感想、また環境や生物に関する質問等、お待ちしております。次回Vol.4は10月上旬発行予定です。(編集室一同)